

「第二回 可視赤外線観測装置技術ワークショップ」
ファーストサーキュラー

<http://www.naoj.org/Projects/newdev/instsws201212/>

日程、場所：

2012年12月17日（月）から12月18日（火）

国立天文台三鷹、大セミナー室

開催趣旨：

天文学観測装置開発においてグループ間での情報共有や連携、技術の共通化を進めることは非常に重要です。特に TMT や SPICA といった大型望遠鏡計画や 大学主導の中小規模計画が進行中の可視赤外線天文学の分野では、このような 連携強化が強く求められています。本ワークショップは、可視赤外線分野での装置開発を念頭に、技術・情報の 共有促進を目的としており、今回が2回目となります。以下のようなセッションを 設け、数件の招待講演と一般講演（口頭・ポスター）を行います。

- 要素技術の最先端

観測装置を構成する技術要素について最新動向を共有する。例えば新しい光学素子や駆動機構、検出器技術などが挙げられる。具体的な装置に直接結びつかない内容も可である。光赤外線分野に適用可能な技術であれば近隣分野の技術発表も歓迎である。

- 各機関での開発課題とその取組

各大学やグループが行っている装置開発状況を報告・議論する。各グループでの得意分野が俯瞰できる内容とする。

- 今後の装置開発の方向性

今後の装置開発の進め方について議論する。具体的には大型プロジェクトと大学プロジェクトの相互協力や企業とのかかわり方などについて議論を行う。

講演募集：

本ワークショップでは装置開発の現状や課題の紹介、周辺技術、要素技術についての講演を広く募集します。特に現在進行中の院生の研究発表や技術系職員、関連分野の工学系研究室の発表も歓迎いたします。

参加・講演・旅費の申し込みの具体的な方法については10月下旬に発行するセカンドサーキュラーにて案内します。

締切は11月下旬になる予定です。参加・発表予定の方々は予定の確保および準備をお願いします。

ご意見、ご要望は下記世話人（astroinst2012_at_astr.tohoku.ac.jp）までお願いします。

世話人：

宮田隆志

高見英樹、尾崎 忍夫、岡田則夫、臼田 知史、岩田 生、本原 顕太郎、菅井肇、市川 隆、
秋山 正幸、吉田 道利、森谷 友由希、栗田 光樹夫、海老塚 昇、片坐 宏一